

日立・高萩広域下水道事業経営計画

団 体 名： 日立・高萩広域下水道組合

事 業 名： 公共下水道事業

策 定 日： 平成 29 年 3 月

計 画 期 間： 平成 29 年度 ～ 平成 38 年度

1. 事業概要

(1) 事業の現況

① 施設

供用開始年度 (供用開始後年数)	平成 1 年 (28 年)	法適 (全部適用・一部適用) 非適の区分	法適 (一部適用)
処理区域内人口密度	27.7/ha	流域下水道等への 接続の有無	無
処 理 区 数	1 処理区		
処 理 場 数	1 箇所：伊師浄化センター		
広域化・共同化・ 最適化実施状況*1	<p>広域化 (一部事務組合による事業実施)：昭和 57 年 4 月 1 日に、地方自治法に基づく一部事務組合として広域下水道組合を設立し、日立市と高萩市を構成市として日立市北部及び高萩市の公共下水道事業を実施しています。事業計画面積 2,544.5 ヘクタールに対する平成 27 年度末整備率 99.9%</p> <p>共同化 (那珂久慈ブロック広域汚泥処理)：那珂久慈流域下水道と周辺の単独下水道から発生する下水道汚泥を集約的に処理し、安定的・経済的な汚泥処理を図り、汚泥の再利用の促進を図る広域汚泥処理を実施しています。</p> <p>1 号炉：平成 10 年 4 月供用開始 2 号炉：平成 18 年 4 月供用開始</p>		

*1 「広域化」とは、一部事務組合による事業実施等の他の自治体との事業統合、流域下水道への接続を指す。

「共同化」とは、複数の自治体で共同して使用する施設の建設 (定住自立圏構想や連携中枢都市圏に基づくものを含む)、広域化・共同化を推進するための計画に基づき実施する施設の整備 (総務副大臣通知)、事務の一部を共同して管理・執行する場合 (料金徴収等の事務の一部を一部事務組合によって実施する場合等) を指す。

「最適化」とは、①他の事業との統廃合、②公共下水・集排、浄化槽等の各種処理施設の中から、地理的・社会的条件に応じて最適なものを選択すること (処理区の統廃合を含む。)、③施設の統廃合 (処理区の統廃合を伴わない。) を指す。

② 使用料

一般家庭用使用料体系 及び業務用使用料体系 の概要・考え方	1ヶ月当たりの下水道使用料金表 (平成9年6月1日～) ※消費税別			
	汚水の種類	基本使用料		超過使用料
	汚水排除量	金額	汚水排除量	金額 (1立方メートルにつき)
一般汚水	10立方メートル以下の分	1,450円	11立方メートル以上 20立方メートル以下の分	160円
			21立方メートル以上 30立方メートル以下の分	172円
			31立方メートル以上 50立方メートル以下の分	184円
			51立方メートル以上 100立方メートル以下の分	195円
			101立方メートル以上 200立方メートル以下の分	208円
			201立方メートル以上	220円
浴場汚水	10立方メートル以下の分	1,048円	11立方メートル以上の分	105円
備考 1 一般汚水とは、浴場汚水以外の汚水をいう。 2 浴場汚水とは、物価統制令 (昭和21年勅令第118号) 第4条の規程に基づき、茨城県知事が指定する入浴料金の統制額の適用を受ける公衆浴場の用に供した汚水をいう。				
その他の使用料体系の 概要・考え	—			
条例上の使用料*2 (20㎡あたり) ※過去3年度分を記載	平成 27 年度 3,294 円	実質的な使用料*3 (20㎡あたり) ※過去3年度分を記載	平成 27 年度 3,549 円	
	平成 26 年度 3,294 円		平成 26 年度 3,751 円	
	平成 25 年度 3,202 円		平成 25 年度 3,681 円	

*2 条例上の使用料とは、一般家庭における 20㎡あたりの使用料をいう。

*3 実質的な使用料とは、料金収入の合計を有収水量の合計で除した値に 20㎡を乗じたもの (家庭用のみでなく業務用を含む) をいう。

③ 組織

職 員 数	21人（日立市派遣職員13人、高萩市派遣職員8人）														
事業運営組織	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総務課</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>工務課</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>施設管理課</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>工事検査課</td> <td>日立市契約検査課職員併任</td> </tr> <tr> <td>会計課</td> <td>日立市会計課職員併任</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table>	区分	人数	総務課	10	工務課	5	施設管理課	6	工事検査課	日立市契約検査課職員併任	会計課	日立市会計課職員併任	合計	21
区分	人数														
総務課	10														
工務課	5														
施設管理課	6														
工事検査課	日立市契約検査課職員併任														
会計課	日立市会計課職員併任														
合計	21														

(2) 民間活力の活用等

民間活用 の状況	ア 民間委託 (包括的民間委託を含む)	浄化センター及びポンプ場の維持管理の一部を委託																																																																																																																																																																																				
	イ 指定管理者制度	—																																																																																																																																																																																				
	ウ PPP・PFI	—																																																																																																																																																																																				
資産活用 の状況	ア エネルギー利用 (下水熱・下水汚泥・発電等) *4	<p>・平成16年度にコ・ジェネレーションシステム（消化槽で発生した消化ガスを燃料に、発電設備で電力と熱を生産）を導入し、平成17年4月より稼働を開始しています。平成27年度では、総電力量の約40%を消化ガス発電電量が占めており、処理場内電力の削減に繋がっています。</p> <p>H27年度 消化ガス発電設備運転状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">月</th> <th colspan="4">電力利用</th> <th colspan="2">熱利用</th> <th colspan="3">設備運転状況</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">総電力量</th> <th rowspan="2">東京電力量</th> <th rowspan="2">非常用発電電力量</th> <th rowspan="2">消化ガス発電電力量</th> <th colspan="2">消化槽加温</th> <th rowspan="2">消化ガス使用量</th> <th rowspan="2">消化ガス発電運転時間</th> <th rowspan="2">場内の電力消費に占める割合</th> </tr> <tr> <th>発電設備排熱ボイラー</th> <th>加温ボイラー</th> </tr> <tr> <th>kwh</th> <th>kwh</th> <th>kwh</th> <th>kwh</th> <th>MJ</th> <th>MJ</th> <th>m³</th> <th>時</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4</td><td>248,208</td><td>138,998</td><td>0</td><td>109,210</td><td>238,377</td><td>129,722</td><td>64,664</td><td>509</td><td>44.00</td></tr> <tr><td>5</td><td>246,433</td><td>135,893</td><td>0</td><td>110,540</td><td>242,841</td><td>581</td><td>68,467</td><td>529</td><td>44.86</td></tr> <tr><td>6</td><td>240,635</td><td>148,205</td><td>0</td><td>92,430</td><td>153,115</td><td>542</td><td>61,637</td><td>486</td><td>38.41</td></tr> <tr><td>7</td><td>250,436</td><td>159,506</td><td>0</td><td>90,930</td><td>192,845</td><td>993</td><td>64,239</td><td>509</td><td>36.31</td></tr> <tr><td>8</td><td>272,354</td><td>181,774</td><td>270</td><td>90,310</td><td>188,827</td><td>436</td><td>64,732</td><td>508</td><td>33.16</td></tr> <tr><td>9</td><td>267,019</td><td>177,269</td><td>170</td><td>89,580</td><td>191,505</td><td>401</td><td>61,292</td><td>502</td><td>33.55</td></tr> <tr><td>10</td><td>259,534</td><td>167,424</td><td>0</td><td>92,110</td><td>212,486</td><td>31,905</td><td>58,479</td><td>477</td><td>35.49</td></tr> <tr><td>11</td><td>257,044</td><td>157,694</td><td>0</td><td>99,350</td><td>221,414</td><td>41,835</td><td>58,241</td><td>489</td><td>38.65</td></tr> <tr><td>12</td><td>261,741</td><td>158,021</td><td>0</td><td>103,720</td><td>233,913</td><td>195,899</td><td>59,573</td><td>513</td><td>39.63</td></tr> <tr><td>1</td><td>265,461</td><td>154,061</td><td>0</td><td>111,400</td><td>248,198</td><td>179,297</td><td>62,493</td><td>521</td><td>41.96</td></tr> <tr><td>2</td><td>246,952</td><td>145,642</td><td>0</td><td>101,310</td><td>236,145</td><td>164,776</td><td>56,943</td><td>477</td><td>41.02</td></tr> <tr><td>3</td><td>250,874</td><td>136,774</td><td>0</td><td>114,100</td><td>245,073</td><td>200,234</td><td>63,801</td><td>539</td><td>45.48</td></tr> <tr><td>合計</td><td>3,066,691</td><td>1,861,261</td><td>440</td><td>1,204,990</td><td>2,604,739</td><td>946,621</td><td>744,561</td><td>6,059</td><td>39.29</td></tr> <tr><td>最大</td><td>272,354</td><td>181,774</td><td>270</td><td>114,100</td><td>248,198</td><td>200,234</td><td>68,467</td><td>539</td><td>45.48</td></tr> <tr><td>最小</td><td>240,635</td><td>135,893</td><td>0</td><td>89,580</td><td>153,115</td><td>401</td><td>56,943</td><td>477</td><td>33.16</td></tr> </tbody> </table>	月	電力利用				熱利用		設備運転状況			総電力量	東京電力量	非常用発電電力量	消化ガス発電電力量	消化槽加温		消化ガス使用量	消化ガス発電運転時間	場内の電力消費に占める割合	発電設備排熱ボイラー	加温ボイラー	kwh	kwh	kwh	kwh	MJ	MJ	m ³	時	%	4	248,208	138,998	0	109,210	238,377	129,722	64,664	509	44.00	5	246,433	135,893	0	110,540	242,841	581	68,467	529	44.86	6	240,635	148,205	0	92,430	153,115	542	61,637	486	38.41	7	250,436	159,506	0	90,930	192,845	993	64,239	509	36.31	8	272,354	181,774	270	90,310	188,827	436	64,732	508	33.16	9	267,019	177,269	170	89,580	191,505	401	61,292	502	33.55	10	259,534	167,424	0	92,110	212,486	31,905	58,479	477	35.49	11	257,044	157,694	0	99,350	221,414	41,835	58,241	489	38.65	12	261,741	158,021	0	103,720	233,913	195,899	59,573	513	39.63	1	265,461	154,061	0	111,400	248,198	179,297	62,493	521	41.96	2	246,952	145,642	0	101,310	236,145	164,776	56,943	477	41.02	3	250,874	136,774	0	114,100	245,073	200,234	63,801	539	45.48	合計	3,066,691	1,861,261	440	1,204,990	2,604,739	946,621	744,561	6,059	39.29	最大	272,354	181,774	270	114,100	248,198	200,234	68,467	539	45.48	最小	240,635	135,893	0	89,580	153,115	401	56,943	477	33.16
	月	電力利用				熱利用		設備運転状況																																																																																																																																																																														
総電力量		東京電力量		非常用発電電力量	消化ガス発電電力量	消化槽加温		消化ガス使用量	消化ガス発電運転時間	場内の電力消費に占める割合																																																																																																																																																																												
			発電設備排熱ボイラー			加温ボイラー																																																																																																																																																																																
kwh	kwh	kwh	kwh	MJ	MJ	m ³	時	%																																																																																																																																																																														
4	248,208	138,998	0	109,210	238,377	129,722	64,664	509	44.00																																																																																																																																																																													
5	246,433	135,893	0	110,540	242,841	581	68,467	529	44.86																																																																																																																																																																													
6	240,635	148,205	0	92,430	153,115	542	61,637	486	38.41																																																																																																																																																																													
7	250,436	159,506	0	90,930	192,845	993	64,239	509	36.31																																																																																																																																																																													
8	272,354	181,774	270	90,310	188,827	436	64,732	508	33.16																																																																																																																																																																													
9	267,019	177,269	170	89,580	191,505	401	61,292	502	33.55																																																																																																																																																																													
10	259,534	167,424	0	92,110	212,486	31,905	58,479	477	35.49																																																																																																																																																																													
11	257,044	157,694	0	99,350	221,414	41,835	58,241	489	38.65																																																																																																																																																																													
12	261,741	158,021	0	103,720	233,913	195,899	59,573	513	39.63																																																																																																																																																																													
1	265,461	154,061	0	111,400	248,198	179,297	62,493	521	41.96																																																																																																																																																																													
2	246,952	145,642	0	101,310	236,145	164,776	56,943	477	41.02																																																																																																																																																																													
3	250,874	136,774	0	114,100	245,073	200,234	63,801	539	45.48																																																																																																																																																																													
合計	3,066,691	1,861,261	440	1,204,990	2,604,739	946,621	744,561	6,059	39.29																																																																																																																																																																													
最大	272,354	181,774	270	114,100	248,198	200,234	68,467	539	45.48																																																																																																																																																																													
最小	240,635	135,893	0	89,580	153,115	401	56,943	477	33.16																																																																																																																																																																													
イ 土地・施設等利用 (未利用土地・施設の活用等) *5	—																																																																																																																																																																																					

*4 「エネルギー利用」とは、下水汚泥・下水熱等、下水道事業の実施に伴い生じる資源(資産を含む)を用いた収入増につながる取組を指す。

*5 「土地・施設等利用」とは、土地・建物等、下水道事業の実施に不可欠な資産を用いた収入増につながる取組を指す(単純な売却は除く)。

(3) 経営比較分析表を活用した現状分析

経営比較分析表

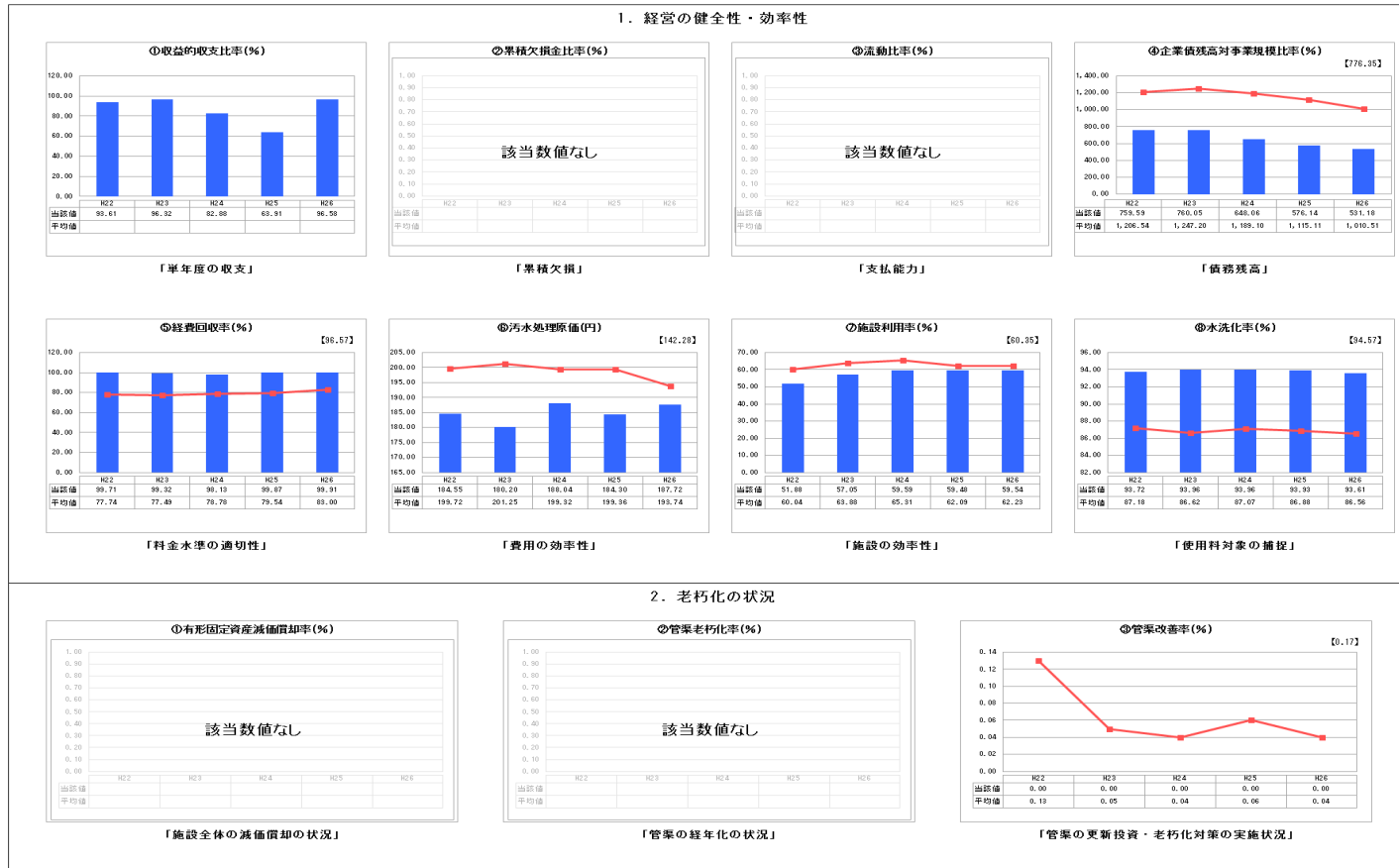
茨城県 日立・高萩広域下水道組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非通用	下水道事業	公共下水道	Bd2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	32.8	76.96	3,294
*組合のみで計算すると93.1%				

人口(人)	面積(k㎡)	人口密度(人/k㎡)
-	-	-
処理区域内人口(人)	処理区域面積(k㎡)	処理区域内人口密度(人/k㎡)
71,141	24.98	2,847.92

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成26年度全国平均



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率の指標は、平成22・24・25年度を除き、100%に近い数値となっている。これらの年度の数値が低いのは、公的資金補償金免除繰上償還により元金償還金が増額となったためであり、この分を除くと98%を超える。

②企業価値対事業規模比率が類似団体より低くなっているのは、面壁値がほぼ完了し、地方債の発行が減少しているためである。平成26年度末の起債残高は、ピーク時の平成12年度末と比較し55%にまで減少している。

③経費回収率は98%以上となり類似団体と比較し高くなっている。しかし、元利償還金への基準内繰入を算定すると約50%と半分になってしまい、構成に依存する形となっている。

④汚水処理原価は類似団体より低くなっているが、元利償還金への基準内繰入を除くと高くなってしまっている。特に東日本大震災以降、有収水量が減少した一方、不明水が増加し、また、電気料金や管渠内及び舗装補修工事等の維持管理費が増加していった。

⑤施設利用率は、平均値よりやや下回る状態であるが、これは、認可計画時に見込んだ工場等の排水が入らないことや、節水器具の普及・人口減少等によると考えられる。普及率が90%（日立市北部及び高萩市）を超えている状況では、大量の水を利用する大規模工場等が出来ない限り、上げることは困難と思われる。

⑥水流失率については、90%を超えており類似団体と比較して高いが、100%となるよう個別訪問等による指導を行う必要がある。

2. 老朽化の状況について

管渠改善率が0%となっているのは、面壁値が昭和55年から始まり、耐用年数の50年を経過している管渠がまだないことや、年次計画により管渠内のテレビカメラ調査を行い、その結果をもとに維持補修等を行っていることで管渠の寿命が図られているためである。

しかしながら、15年後には、最初に布設した管渠が耐用年数を迎え、その後は普及率向上のため、短期間で面壁値を行ったために、毎年膨大な延長の管渠が耐用年数を迎える。そのため、引き続き計画的にテレビカメラ調査及び補修を行い延命化を図っていく。また、年次計画により、管渠の耐震化を進め、地震に強い管渠にしていく予定である。

全体総括

現状は、施設利用率が低いを除き、経費回収率や汚水処理原価等は平均より良い数値となっているが、これは、両市からの基準内繰入により良くなっている過ぎない。今後、元利償還金の減少に伴い、基準内繰入を除いた経費回収率は、現在の約50%から徐々に良くなっていく見込みであるが、現在の料金体系及び維持管理費の水準では、100%とはならない。平成28年度には企業会計に移行し、経営状態がより明確にわかることから、更に適正な維持管理や有収水量の確保等に努める必要がある。

しかし、面壁値がほぼ完了したため、人口減少や工場排水の減少等による有収水量の減少は避けられない。また、設備及び管渠の老朽化により、維持補修費が今後上昇傾向となることが見込まれることから、設備の改修時に省エネタイプの導入や統廃合、委託業務の拡大等を行い、維持管理費を削減する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業価値対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

※添付した「経営比較分析表」に補足事項等がある場合は記載すること。

平成28年4月1日から地方公営企業法を適用したため、適用前の普通会計による平成26年度決算に基づく経営比較分析表です。このため、業務名が法非適用となっています。

また、普及率は、計算式の分母の行政人口が本組合の管理区域外の日立市中部・南部の行政人口を含めて計算した数値になっています。

2. 経営の基本方針

(1) 日立・高萩広域下水道事業と地域・企業の現状と見通し

① 下水道事業の現状と見通し

本組合の下水道事業は、茨城県において常磐海域流域別下水道整備総合計画が策定されたことをうけて、日立市北部、高萩市及び十王町を対象とする広域下水道事業として事業計画が策定され、昭和57年4月1日に、地方自治法に基づく一部事務組合として広域下水道組合を設立し、昭和58年1月に国の事業認可を得て建設事業に着手しました。

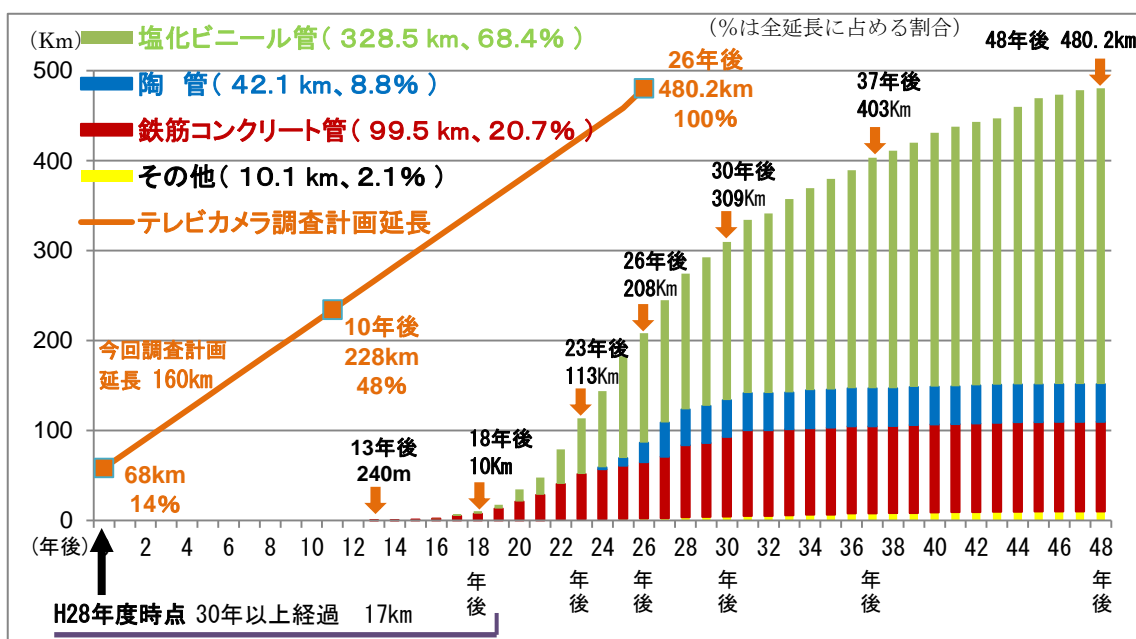
その後、平成元年に日立市北部・高萩市の一部を、平成3年に十王町の一部を供用開始しました。下水道管路（以下「管路」という。）の整備は、昭和58年の第1期整備事業から平成28年度の第7期整備事業で概成する予定で、事業計画面積2,544.5ヘクタールに対する整備率は、平成28年度末に100%になる見込みです。

平成27年度末の区域人口（日立市北部地区と高萩市の行政人口の合計）75,507人に対する処理区域内人口は、70,520人で普及率は約93.4%になりました。

財政状況の長期的な安全性を見る指標である自己資本構成比率は、人口減少による下水道使用料の減少過程であっても、起債残高の大幅な減少により平成28年度の68.3%から平成38年度には86.2%に向上し、財政状況は改善する見通しになっています。

一方、管路延長は約480km（直線距離で日立市から京都府まで）で、標準耐用年数50年を迎える管路は、早期普及のため集中的に整備を進めた影響で、18年後に10km、23年後に113kmと急速に増加していきます。このため、管路の使用可能期間を延ばしてコスト削減を図る手段として、適切な調査・補修が重要になっています。

（今後、標準耐用年数50年を経過する管路の累計延長の推移）



② 地域・企業の現状と見通し

本組合を取り巻く地域の現状は、構成市である日立市及び高萩市で、共に人口減少が進むと想定されています。本組合の管理区域である日立市北部地区については、一般家庭からの下水道使用料（以下「使用料」という。）収入は減少し続けると想定されます。

一方、高萩市については、第6期・第7期整備事業に伴う水洗化人口の増加も見込めるため急激な使用料の減少は起きにくい状況にあると想定されます。

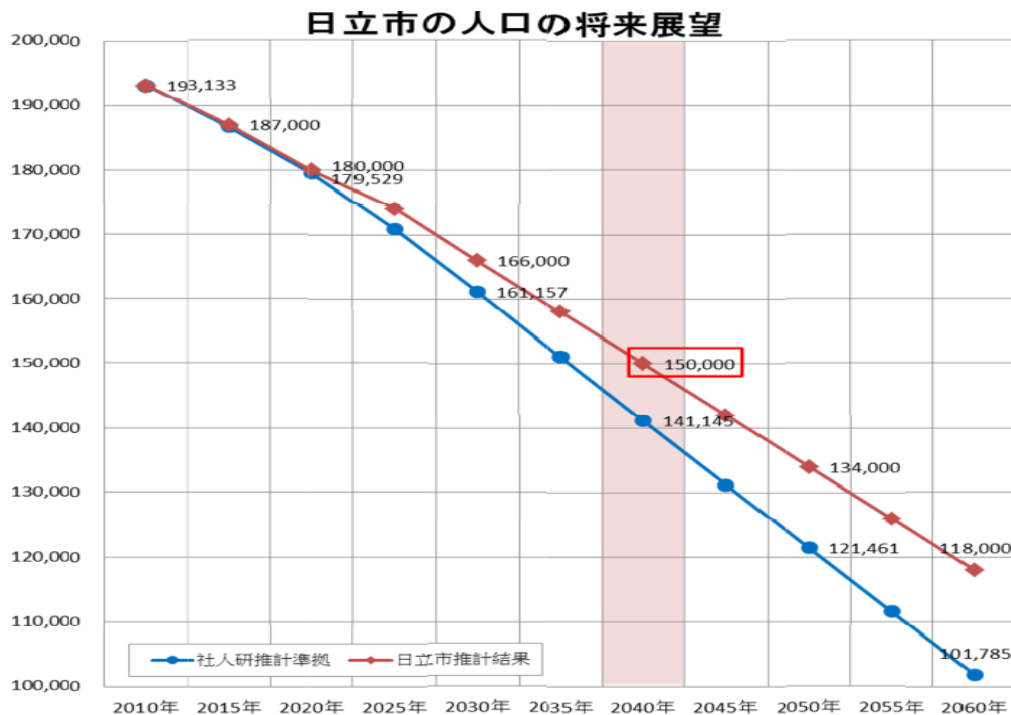
日立市の産業構造は、全国平均と比べ第二次産業の比率が高く、業種別では一般機械と電気機械が半数以上を占め、日立市北部地区には水を多く使う工場も存在します。

近年、当該工場の業務見直しに伴い、急激に使用料収入が減少しましたが、最近は落ち着き安定してきました。このように、下水道の大口使用者である工場からの汚水は人口減少の影響を受けにくいものの、企業の経営戦略や経済状況に左右されやすリスクがあります。

このような企業と地域の特性・現状及び将来見通しを踏まえながら、一般家庭からの使用料収入については人口減少の影響を踏まえつつ、企業からの比較的安定した汚水と直近の下水道整備による水洗化人口の増加分を考慮して、使用料を推定しています。

（日立市人口ビジョン骨子案から引用）

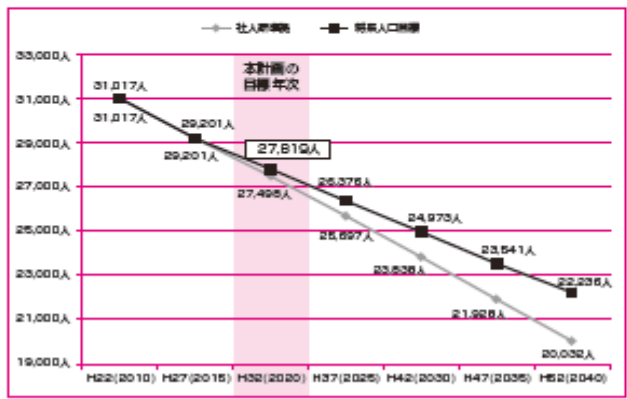
合計特殊出生率については、現実的な数値目標を設定しながら、2040年の推計人口15万人を目指すものとする。



(第5次高萩市総合計画から引用、将来人口目標)



【参考 「高萩市創生総合戦略」における人口の将来展望】



※平成27年以降の数値は推計値であるため、総人口の実績値とは一致しない

(2) 経営の基本方針

下水道事業と地域・企業の現状及び将来見通しを踏まえ、「快適な生活環境の維持」「安全で安心な暮らしの実現と資源の有効利用」「下水道の運営基礎の改善と強化」を基本方針とし、事業を実施することとします。

今後の人口減少による使用料収入の減少に対応するため、標準耐用年数を迎える下水道管を適切な調査・補修により道路陥没等を防止して市民生活の安全を確保し、管路の使用可能年数を延ばすことで投資の抑制を図りながら、生涯コストの低減効果によるコスト削減を経営目標とします。また、この延命化の効果を生かして管路更新事業費を平準化して将来に渡る事業運営の安定化に努め、市民の方々の快適な生活環境を維持していきます。

また、本組合の処理場は、茨城県の津波浸水想定区域に位置するため、大津波に襲われても汚水処理機能を維持し、市民生活を守るための津波対策を進めていきます。

さらに、資源の有効利用では、下水汚泥から発生する消化ガスを利用した発電事業を継続し、動力費の削減に努めると共に、温室効果ガス排出量を削減して地球温暖化防止に寄与していきます。

各事業の実施にあたっては、人口減少に伴い、更新規模を適正化したうえで、長寿命化計画等に基づき最も経済的な方法を採用し、コスト削減を図りながら将来を見据えた取組みを強化することで、下水道の運営基礎の改善と強化を目指すこととします。

3. 投資・財政計画（収支計画）

(1) 投資・財政計画（収支計画）：別紙のとおり

※赤字がある場合には（3）において、その解消方法が示されていることが必要

(2) 投資・財政計画（収支計画）の策定に当たっての説明

① 収支計画のうち投資についての説明

※収支計画の策定に当たって反映した取組について具体的（対象施設、時期、金額等）に記載すること。

<取組例>

- ・投資の目標に関する事項
- ・管渠、処理場等の建設・更新に関する事項
- ・広域化・共同化・最適化に関する事項
- ・投資の平準化に関する事項
- ・民間の活力の活用に関する事項（PPP/PFI など）
- ・防災・安全対策に関する事項
- ・その他

I 投資の目標に関する事項

今後、標準耐用年数を経過する管路が急激に増加して多額の投資が予想され、経営における最大のリスク要因になると想定されることから、将来の投資の平準化とコスト削減を図るため、管路更新計画の基礎となるテレビカメラ調査に優先的に投資することとします。

また、処理場及びポンプ場の電気・機械設備の更新は、人口減少に伴い、更新規模を適正化したうえで、長寿命化計画に基づき最も経済的な方法で投資することとします。

本組合の処理場及び一部のポンプ場は茨城県津波浸水想定区域に位置し、津波による被害リスクが高いことから、防災・安全対策に投資することとします。

これらの事業実施に当たっては、各年度の事業費を平準化して投資することとします。

II 管渠、処理場等の建設・更新に関する事項

(考え方) 管渠の布設、柵の設置工事は近年の実績を基に毎年同程度で推移。

管渠布設工事：H29年～H38年で110,600千円

柵設置工事：H29年～H38年で220,250千円

(考え方) ポンプ場及び処理場は長寿命化計画に基づき推移。

金額はH29年～H38年の工事費合計

田尻中継ポンプ場：改築 38,434千円

：長寿命化 28,000千円

本町中継ポンプ場：改築 24,700千円

：長寿命化 1,000千円

マンホールポンプ：更新 57,200千円

：改築 197,462千円

	: 長寿命化	13,100 千円
伊師浄化センター	: 改築工事	5,520,360 千円
	: 長寿命化工事	798,000 千円

Ⅲ 投資の平準化に関する事項

近年の実績に基づき、優先度を考慮して予算の範囲内で投資を行い、投資の平準化を行いました。

Ⅳ 防災・安全対策に関する事項

(考え方) 総合地震計画に基づき推移。

金額はH29年～H38年の工事費合計

管路	: 耐震対策	33,910 千円
田尻中継ポンプ場	: 津波浸水対策	19,636 千円
伊師浄化センター	: 津波浸水対策	693,000 千円
	: 耐震対策	1,080,609 千円

② 収支計画のうち財源についての説明

※収支計画の策定に当たって反映した取組について具体的（時期、金額、対象施設等）に記載すること。

<取組例>

- ・財源の目標に関する事項
- ・使用料収入の見通し、使用料の見直しに関する事項
- ・企業債に関する事項
- ・繰入金に関する事項
- ・資産の有効活用に関する事項
- ・その他

I 財源の目標に関する事項

使用料収入は人口減少に伴い減少していく見通しのため、水洗化率の向上による収入確保に努めることとします。

II 使用料収入の見通し、使用料の見直しに関する事項

(考え方) 使用料収入の見通しについて、年々人口が減少すると予測し毎年減少。

H29年～H38で11,247,820千円

人口減少による使用料収入の減少過程にありますが、多額の事業費を要した下水道管路に係る企業債の償還を順次終えるため、投資計画を実施する場合でも、企業債残高は大幅に減少し、構成市の繰入金も年々減少する見通しのため、使用料水準は、当面、据え置くものとします。

Ⅲ 国庫補助金に関する事項

(考え方) 建設改良費に係る国庫補助拠出基準に基づき推計。

H29年～H38年で4,937,583千円

Ⅳ 企業債に関する事項

(考え方) 建設改良費に基づき、国庫補助事業・単独事業に分けて起債事業充当率100%で推計。ただし、計画期間後半は、起債残高の大幅な減少により、当年度損益勘定留保資金を建設改良費に充当できる見通しのため、起債事業充当率を引き下げています。

30年償還(一般分)は利率1.3%、10年償還(設備分)は利率0.4%で一般分と設備分ともに元金均等。

H29年～H38年で3,292,600千円

Ⅴ 繰入金に関する事項

(考え方) 総務省の示す算定基準に基づき基準内繰入額を推計。

建設改良費及び収支の均衡・不足額に基づき、基準外繰入額を推計。

<基準内繰入>

他会計補助金等：H29年～H38年で4,633,561千円

他会計出資金：H29年～H38年で212,421千円

<基準外繰入>

他会計補助金等：H29年～H38年で1,043,027千円

他会計出資金：H29年～H38年で3,052,403千円

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

※収支計画の策定に当たって反映した取組について具体的(時期、金額、対象施設等)に記載すること。

<取組例>

- ・民間の活力の活用に関する事項(包括的民間委託等の民間委託、指定管理者制度、PPP/PFIなど)
- ・職員給与費に関する事項
- ・動力費に関する事項
- ・薬品費に関する事項
- ・修繕費に関する事項
- ・委託費に関する事項
- ・その他

I 職員給与費に関する事項

(考え方) 本組合は、構成市からの地方自治法に基づく派遣職員のみで構成されているため、構成市の行政改革の影響を受けやすい組織になっています。

過去11年間、本組合全体の職員数は約4割減少しました。今後も減少する可能性があると共に、再任用職員による補充などにより、収支計画上で見込んだ人件費は、実際には低減する可能性があります。このため、人事院勧告等に伴う各年度の人件費上昇分も見込んでいません。一方、収支計画上では、構成市の行政改革の影響は考慮せず、処理場整備の初期に匹敵する多数の改築事業等に対応するため、近年の実績を基に毎年同程度で推移するものと想定しています。

人件費：H29年～H38年で2,060,240千円

II 動力費に関する事項

(考え方) ポンプ場費は毎年減少傾向で推移

処理場費は消化ガス発電により動力費が低減して推移。ただし、消化ガス発電設備の法定点検項目数の年度変動により停止期間が変動するため、東京電力からの電力買入の変動に伴い推移。

ポンプ場費：H29年～H38年で117,233千円

処理場費：H29年～H38年で420,607千円

III 薬品費に関する事項

(考え方) 人口減少による有収水量の減少に伴い、薬品費も毎年減少傾向で推移。

薬品費：H29年～H38年で119,090千円

IV 修繕費に関する事項

(考え方) 管渠費・ポンプ場費・総係費は毎年同程度で推移。

処理場費は消化ガス発電設備の法定点検項目数の年度変動に伴う修繕箇所数の変動により増減して推移。

管渠費・ポンプ場費・総係費：H29年～H38年で592,654千円

処理場費：H29年～H38年で172,276千円

V 委託費に関する事項

(考え方) 下水道法事業認可変更業務、ポンプ場・処理場の非常用発電機保守点検業務など数年ごとに発生する業務を見据えて推移。

委託費：H29年～H38年で2,353,848千円

(3) 投資・財政計画（収支計画）に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

(1) において、純損益（法適用）又は実質収支（法非適用）が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

① 今後の投資についての考え方・検討状況

広域化・共同化・最適化に関する事項	既に広域下水道事業を展開済ですが、他団体から広域化等の検討要請があれば、構成市と協議のうえ検討することとします。
投資の平準化に関する事項	耐用年数を経過する大量の老朽管路対策として、適切な調査・補修により、管路の延命化を図ることで、投資を平準化することとします。
民間活力の活用に関する事項 (PPP/PFI など)	現在、検討はありません。(必要に応じて検討することとします。)
その他の取組	現在、検討はありません。(必要に応じて検討することとします。)

② 今後の財源についての考え方・検討状況

使用料の見直しに関する事項	人口減少等が大きく下振れした場合などは、必要に応じて見直しを検討することとします。
資産活用による収入増加 の取組について	現在、検討はありません。(必要に応じて検討することとします。)
その他の取組	現在、検討はありません。(必要に応じて検討することとします。)

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

民間活力の活用に関する事項 (包括的民間委託等の民間委託、指定管理者制度、PPP/PFI など)	現在、検討はありません。(必要に応じて検討することとします。)
職員給与費に関する事項	今後も構成市の行政改革の影響で職員数が減少する可能性があります。
動力費に関する事項	処理場動力費は消化ガス発電により低減していますが、さらなる低減を検討することとします。
薬品費に関する事項	収支計画の実績を踏まえて、必要に応じて検討することとします。
修繕費に関する事項	収支計画の実績を踏まえて、必要に応じて検討することとします。
委託費に関する事項	収支計画の実績を踏まえて、必要に応じて検討することとします。
その他の取組	収支計画の実績を踏まえて、必要に応じて検討することとします。

4. 経営計画の事後検証、更新等に関する事項

経営計画の事後検証、更新等に関する事項	<p>経営計画の事後検証については、毎年度、進捗管理を行うと共に、計画(Plan)・実施(Do)・検証(Check)・見直し(Action)のPDCAサイクルにより評価・検証を行い、3年ごとに見直しを行うこととします。</p> <p>また、経営計画と実績との乖離が著しい場合や、方針や施策の大幅な変更により経営計画の修正が必要な場合は随時見直しを行うこととします。</p>
---------------------	--

投資・財政計画
(収支計画)

日立・高萩広域下水道事業(全体)

(単位:千円、%)

年度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
区 分	1. 営業収益(A)	—	1,139,378	1,145,529	1,147,166	1,141,032	1,135,097	1,128,912	1,122,731	1,117,268	1,110,479	1,104,257	1,098,152
	(1) 料 金 収 入	—	1,139,288	1,145,399	1,146,356	1,140,852	1,134,997	1,128,791	1,122,601	1,116,427	1,110,269	1,104,127	1,098,001
収 益	(2) 受託工事収益(B)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3) そ の 他	—	90	130	810	180	100	121	130	841	210	130	151
的	2. 営業外収益	—	1,289,922	1,229,314	1,135,965	1,139,140	1,171,735	1,180,079	1,190,516	1,179,747	1,195,095	1,190,127	1,199,450
	(1) 補助金等	—	713,022	627,330	580,889	566,607	573,767	569,153	567,499	545,579	553,682	546,837	545,245
収 入	他会計補助金等	—	713,022	627,330	580,889	566,607	573,767	569,153	567,499	545,579	553,682	546,837	545,245
	その他補助金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
的	(2) 長期前受金戻入	—	576,113	601,280	554,373	571,830	597,265	610,223	622,314	633,466	640,711	642,588	653,503
	(3) そ の 他	—	787	704	703	703	703	703	703	702	702	702	702
支 出	収 入 計 (C)	—	2,429,300	2,374,843	2,283,131	2,280,172	2,306,832	2,308,991	2,313,247	2,297,015	2,305,574	2,294,384	2,297,602
	1. 営業費用	—	2,115,149	2,099,980	2,041,176	2,067,204	2,120,367	2,147,688	2,176,399	2,181,040	2,207,706	2,209,736	2,223,791
支 出	(1) 職 員 給 与 費	—	206,687	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024
	基 本 給 与 費	—	206,687	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024	206,024
的	退 職 給 付 費	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支 出	(2) 経 費	—	462,681	431,376	438,199	435,158	441,578	446,150	452,671	438,553	454,878	443,384	440,656
	動 力 費	—	56,089	49,537	53,957	54,277	53,977	54,507	54,347	53,957	55,107	53,977	54,197
的	修 繕 費	—	96,917	85,224	73,434	75,734	73,434	76,934	76,134	73,434	81,434	73,434	75,734
	材 料 費	—	359	372	426	426	426	426	426	426	426	426	426
支 出	そ の 他	—	309,316	296,243	310,382	304,721	313,741	314,283	321,764	310,736	317,911	315,547	310,299
	(3) 減 価 償 却 費	—	1,445,781	1,462,580	1,396,953	1,426,022	1,472,765	1,495,514	1,517,704	1,536,463	1,546,804	1,560,328	1,577,111
支 出	2. 営業外費用	—	311,651	274,863	241,955	212,968	186,465	161,303	136,848	115,975	97,868	84,648	73,811
	(1) 支 払 利 息	—	309,649	272,613	239,695	210,708	184,205	159,043	134,588	113,715	95,608	82,388	71,551
支 出	(2) そ の 他	—	2,002	2,250	2,260	2,260	2,260	2,260	2,260	2,260	2,260	2,260	2,260
	支 出 計 (D)	—	2,426,800	2,374,843	2,283,131	2,280,172	2,306,832	2,308,991	2,313,247	2,297,015	2,305,574	2,294,384	2,297,602
特 別	経常損益 (C) - (D) (E)	—	2,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特 別 利 益 (F)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特 別	特 別 損 失 (G)	—	2,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特 別 損 益 (F) - (G) (H)	—	△ 2,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	当年度純利益(又は純損失)(E)+(H)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	繰越利益剰余金又は累積欠損金(I)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	流 動 資 産 (J)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	う ち 未 収 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	流 動 負 債 (K)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	う ち 建 設 改 良 費 分	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	う ち 一 時 借 入 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	う ち 未 払 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	累積欠損金比率($\frac{(I)}{(A)-(B)} \times 100$)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	地方財政法施行令第15条第1項により算定した資金不足額(L)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	営業収益-受託工事収益(A)-(B)(M)	—	1,139,378	1,145,529	1,147,166	1,141,032	1,135,097	1,128,912	1,122,731	1,117,268	1,110,479	1,104,257	1,098,152
	地方財政法による((L)/(M)×100)資金不足の比率	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	健全化法施行令第16条により算定し(N)資金不足額	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	健全化法施行規則第6条に規定する(O)解消可能資金不足額	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流 動	健全化法施行令第17条により算定し(P)事業の規模	—	1,139,378	1,145,529	1,147,166	1,141,032	1,135,097	1,128,912	1,122,731	1,117,268	1,110,479	1,104,257	1,098,152
	健全化法第22条により算定した資金不足比率((N)/(P)×100)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

投資・財政計画
(収支計画)

日立・高萩広域下水道事業(全体)

(単位:千円)

年 度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度		
区 分	資本的収入	1. 企業債	—	112,300	238,300	475,600	550,900	573,200	458,600	328,800	242,000	190,900	142,300	92,000	
		うち資本費平準化債	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2. 他会計出資金	—	730,197	680,696	660,391	384,363	351,087	315,869	289,403	175,538	145,824	133,126	128,528	
		3. 他会計補助金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		4. 他会計負担金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		5. 他会計借入金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		6. 国(都道府県)補助金	—	98,000	218,400	708,499	699,742	734,368	553,350	436,454	366,170	349,300	458,750	412,550	
		7. 固定資産売却代金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		8. 工事負担金	—	4,598	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		9. その他	—	32,012	19,572	11,691	8,172	3,429	2,110	1,805	1,650	1,548	1,505	1,500	
		計 (A)	—	977,107	1,156,968	1,856,181	1,643,177	1,662,084	1,329,929	1,056,462	785,358	687,572	735,681	634,578	
		(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		純計 (A)-(B) (C)	—	977,107	1,156,968	1,856,181	1,643,177	1,662,084	1,329,929	1,056,462	785,358	687,572	735,681	634,578	
		資本的支出	1. 建設改良費	—	298,515	546,298	1,350,322	1,363,897	1,415,466	1,068,065	890,710	726,362	694,245	921,052	863,700
		うち職員給与費	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2. 企業債償還金	—	1,575,884	1,494,802	1,406,712	1,193,798	1,184,015	1,193,933	1,102,427	994,727	930,769	774,387	735,490	
		3. 他会計長期借入金返還金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		4. 他会計への支出金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		5. その他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計 (D)	—	1,874,399	2,041,100	2,757,034	2,557,695	2,599,481	2,261,998	1,993,137	1,721,089	1,625,014	1,695,439	1,599,190		
	資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)	—	897,292	884,132	900,853	914,518	937,397	932,069	936,675	935,731	937,442	959,758	964,612		
	補填財源	1. 損益勘定留保資金	—	869,668	861,300	842,580	854,192	875,500	885,291	895,390	902,997	906,093	917,740	923,608	
	2. 利益剰余金処分額	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	3. 繰越工事資金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	4. その他	—	27,624	22,832	58,273	60,326	61,897	46,778	41,285	32,734	31,349	42,018	41,004		
	計 (F)	—	897,292	884,132	900,853	914,518	937,397	932,069	936,675	935,731	937,442	959,758	964,612		
	補填財源不足額 (E)-(F) (G)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	他会計借入金残高 (H)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	企業債残高 (H)	—	12,266,595	11,010,093	10,078,981	9,436,083	8,825,268	8,089,935	7,316,307	6,563,581	5,823,712	5,191,625	4,548,134		

○他会計繰入金

(単位:千円)

年 度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
区 分	収益的収支分	—	713,022	627,330	580,889	566,607	573,767	569,153	567,499	545,579	553,682	546,837	545,245
	うち基準内繰入金	—	689,195	599,841	465,059	448,189	448,096	455,309	454,028	454,811	436,076	436,076	436,076
	うち基準外繰入金	—	23,827	27,489	115,830	118,418	125,671	113,844	113,471	90,768	117,606	110,761	109,169
資本的収支分	資本的収支分	—	730,197	680,696	660,391	384,363	351,087	315,869	289,403	175,538	145,824	133,126	128,528
	うち基準内繰入金	—	89,698	74,640	56,702	31,802	23,138	17,295	8,844	0	0	0	0
	うち基準外繰入金	—	640,499	606,056	603,689	352,561	327,949	298,574	280,559	175,538	145,824	133,126	128,528
合 計	—	1,443,219	1,308,026	1,241,280	950,970	924,854	885,022	856,902	721,117	699,506	679,963	673,773	

投資・財政計画
(収支計画)

日立・高萩広域下水道事業(日立市分)

(単位:千円,%)

区 分	年 度	前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
収 益 的 収 入	1. 営 業 収 益 (A)	—	754,959	757,196	753,220	747,950	743,050	738,226	733,404	729,051	723,830	718,980	714,206
	(1) 料 金 収 入	—	754,900	757,111	752,690	747,832	742,985	738,147	733,319	728,501	723,693	718,895	714,107
	(2) 受 託 工 事 収 益 (B)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3) そ の 他	—	59	85	530	118	65	79	85	550	137	85	99
	2. 営 業 外 収 益	—	648,689	619,981	567,181	574,317	597,483	603,985	613,821	607,200	619,154	617,331	625,327
	(1) 補 助 金 等	—	316,495	274,230	251,636	245,969	252,723	250,865	252,866	238,817	246,538	245,022	247,112
	他 会 計 補 助 金 等	—	316,495	274,230	251,636	245,969	252,723	250,865	252,866	238,817	246,538	245,022	247,112
	そ の 他 補 助 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2) 長 期 前 受 金 戻 入	—	331,490	345,101	315,085	327,888	344,300	352,660	360,495	367,924	372,157	371,850	377,756
	(3) そ の 他	—	704	650	460	460	460	460	460	459	459	459	459
収 入 の 計 (C)	—	1,403,648	1,377,177	1,320,401	1,322,267	1,340,533	1,342,211	1,347,225	1,336,251	1,342,984	1,336,311	1,339,533	
支 出	1. 営 業 費 用	—	1,237,722	1,235,065	1,198,645	1,218,077	1,252,423	1,269,465	1,289,439	1,290,934	1,307,402	1,306,950	1,314,602
	(1) 職 員 給 与 費	—	118,247	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041
	基 本 給	—	118,247	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041	132,041
	退 職 給 付 費	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ の 他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2) 経 費	—	288,051	260,352	270,283	268,162	272,334	275,030	280,986	270,031	280,475	273,182	271,380
	動 力 費	—	36,689	32,307	35,307	35,516	35,320	35,667	35,562	35,307	36,059	35,320	35,464
	修 繕 費	—	63,027	55,553	47,953	49,457	47,953	50,242	49,719	47,953	53,185	47,953	49,457
	材 料 費	—	215	222	248	248	248	248	248	248	248	248	248
	そ の 他	—	188,120	172,270	186,775	182,941	188,813	188,873	195,457	186,523	190,983	189,661	186,211
(3) 減 価 償 却 費	—	831,424	842,672	796,321	817,874	848,048	862,394	876,412	888,862	894,886	901,727	911,181	
2. 営 業 外 費 用	—	165,052	142,112	121,756	104,190	88,110	72,746	57,786	45,317	35,582	29,361	24,931	
(1) 支 払 利 息	—	164,343	140,878	120,515	102,949	86,869	71,505	56,545	44,076	34,341	28,120	23,690	
(2) そ の 他	—	709	1,234	1,241	1,241	1,241	1,241	1,241	1,241	1,241	1,241	1,241	
支 出 の 計 (D)	—	1,402,774	1,377,177	1,320,401	1,322,267	1,340,533	1,342,211	1,347,225	1,336,251	1,342,984	1,336,311	1,339,533	
経 常 損 益 (C) - (D) (E)	—	874	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特 別 利 益 (F)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特 別 損 失 (G)	—	874	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特 別 損 益 (F) - (G) (H)	—	△ 874	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当 年 度 純 利 益 (又 は 純 損 失) (E) + (H)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
繰 越 利 益 剰 余 金 又 は 累 積 欠 損 金 (I)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流 動 資 産 (J)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 未 収 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流 動 負 債 (K)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 建 設 改 良 費 分	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 一 時 借 入 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 未 払 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
累 積 欠 損 金 比 率 ($\frac{(I)}{(A)-(B)} \times 100$)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地 方 財 政 法 施 行 令 第 15 条 第 1 項 に よ り 算 定 し た 資 金 の 不 足 額 (L)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
営 業 収 益 - 受 託 工 事 収 益 (A) - (B) (M)	—	754,959	757,196	753,220	747,950	743,050	738,226	733,404	729,051	723,830	718,980	714,206	
地 方 財 政 法 に よ り (L) / (M) × 100 資 金 不 足 の 比 率	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健 全 化 法 施 行 令 第 16 条 に よ り 算 定 し た 資 金 の 不 足 額 (N)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健 全 化 法 施 行 規 則 第 6 条 に 規 定 す る 解 消 可 能 資 金 不 足 額 (O)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健 全 化 法 施 行 令 第 17 条 に よ り 算 定 し た 事 業 の 規 模 (P)	—	754,959	757,196	753,220	747,950	743,050	738,226	733,404	729,051	723,830	718,980	714,206	
健 全 化 法 第 22 条 に よ り 算 定 し た 資 金 不 足 比 率 ((N) / (P) × 100)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

投資・財政計画
(収支計画)

日立・高萩広域下水道事業(日立市分)

(単位:千円)

年度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
資本的 収入	1. 企業債	—	34,200	145,900	323,100	368,600	373,500	296,000	214,200	154,000	102,300	66,200	31,100
	うち資本費平準化債	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 他会計出資金	—	468,888	440,758	408,341	231,852	217,436	181,314	162,632	60,572	50,252	38,708	39,069
	3. 他会計補助金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 他会計負担金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 他会計借入金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 国(都道府県)補助金	—	43,092	139,437	476,495	463,949	478,158	360,710	286,241	243,285	227,175	298,530	267,161
	7. 固定資産売却代金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8. 工事負担金	—	4,598	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9. その他	—	14,085	7,320	6,044	5,661	1,677	1,469	1,364	1,296	1,229	1,200	1,200
	計 (A)	—	564,863	733,415	1,213,980	1,070,062	1,070,771	839,493	664,437	459,153	380,956	404,638	338,530
	(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	純計 (A)-(B) (C)	—	564,863	733,415	1,213,980	1,070,062	1,070,771	839,493	664,437	459,153	380,956	404,638	338,530
	1. 建設改良費	—	127,239	345,316	904,655	899,922	916,786	690,421	579,440	476,930	446,817	594,699	554,882
	うち職員給与費	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 企業債償還金	—	957,749	900,373	829,446	699,724	697,598	688,770	627,560	524,393	476,828	366,733	343,222
	3. 他会計長期借入返還金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. 他会計への支出金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. その他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計 (D)	—	1,084,988	1,245,689	1,734,101	1,599,646	1,614,384	1,379,191	1,207,000	1,001,323	923,645	961,432	898,104	
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)	—	520,125	512,274	520,121	529,584	543,613	539,698	542,563	542,170	542,689	556,794	559,574	
補填財源	1. 損益勘定留保資金	—	499,934	497,571	481,236	489,986	503,748	509,734	515,917	520,938	522,729	529,877	533,425
	2. 利益剰余金処分額	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4. その他	—	20,191	14,703	38,885	39,598	39,865	29,964	26,646	21,232	19,960	26,917	26,149
計 (F)	—	520,125	512,274	520,121	529,584	543,613	539,698	542,563	542,170	542,689	556,794	559,574	
補填財源不足額 (E)-(F) (G)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
他会計借入金残高 (G)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
企業債残高 (H)	—	5,861,434	5,106,961	4,600,615	4,269,491	3,945,393	3,552,623	3,139,263	2,768,870	2,394,342	2,093,809	1,781,687	

○他会計繰入金

(単位:千円)

年度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
収益的 収支分	—	—	316,495	274,230	251,636	245,969	252,723	250,865	252,866	238,817	246,538	245,022	247,112
	うち基準内繰入金	—	303,027	257,582	174,156	168,636	170,724	176,886	177,039	181,145	170,040	170,040	170,040
	うち基準外繰入金	—	13,468	16,648	77,480	77,333	81,999	73,979	75,827	57,672	76,498	74,982	77,072
資本的 収支分	—	—	468,888	440,758	408,341	231,852	217,436	181,314	162,632	60,572	50,252	38,708	39,069
	うち基準内繰入金	—	62,804	53,180	38,890	22,404	17,075	12,089	7,326	0	0	0	0
	うち基準外繰入金	—	406,084	387,578	369,451	209,448	200,361	169,225	155,306	60,572	50,252	38,708	39,069
合 計	—	785,383	714,988	659,977	477,821	470,159	432,179	415,498	299,389	296,790	283,730	286,181	

投資・財政計画
(収支計画)

日立・高萩広域下水道事業(高萩市分)

(単位:千円,%)

年 度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
区 分	1. 営 業 収 益 (A)	—	384,419	388,333	393,946	393,082	392,047	390,686	389,327	388,217	386,649	385,277	383,946
	(1) 料 金 収 入	—	384,388	388,288	393,666	393,020	392,012	390,644	389,282	387,926	386,576	385,232	383,894
	(2) 受 託 工 事 収 益 (B)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(3) そ の 他	—	31	45	280	62	35	42	45	291	73	45	52
	2. 営 業 外 収 益	—	641,233	609,333	568,784	564,823	574,252	576,094	576,695	572,547	575,941	572,796	574,123
	(1) 補助金等	—	396,527	353,100	329,253	320,638	321,044	318,288	314,633	306,762	307,144	301,815	298,133
	他会計補助金等	—	396,527	353,100	329,253	320,638	321,044	318,288	314,633	306,762	307,144	301,815	298,133
	その他補助金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(2) 長期前受金戻入	—	244,623	256,179	239,288	243,942	252,965	257,563	261,819	265,542	268,554	270,738	275,747
	(3) そ の 他	—	83	54	243	243	243	243	243	243	243	243	243
	収 入 計 (C)	—	1,025,652	997,666	962,730	957,905	966,299	966,780	966,022	960,764	962,590	958,073	958,069
	1. 営 業 費 用	—	877,427	864,915	842,531	849,127	867,944	878,223	886,960	890,106	900,304	902,786	909,189
	(1) 職 員 給 与 費	—	88,440	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983
	基 本 給	—	88,440	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983	73,983
退 職 給 付 費	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
そ の 他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経 費	—	174,630	171,024	167,916	166,996	169,244	171,120	171,685	168,522	174,403	170,202	169,276	
動 力 費	—	19,400	17,230	18,650	18,761	18,657	18,840	18,785	18,650	19,048	18,657	18,733	
修 繕 費	—	33,890	29,671	25,481	26,277	25,481	26,692	26,415	25,481	28,249	25,481	26,277	
材 料 費	—	144	150	178	178	178	178	178	178	178	178	178	
そ の 他	—	121,196	123,973	123,607	121,780	124,928	125,410	126,307	124,213	126,928	125,886	124,088	
(3) 減 価 償 却 費	—	614,357	619,908	600,632	608,148	624,717	633,120	641,292	647,601	651,918	658,601	665,930	
2. 営 業 外 費 用	—	146,599	132,751	120,199	108,778	98,355	88,557	79,062	70,658	62,286	55,287	48,880	
(1) 支 払 利 息	—	145,306	131,735	119,180	107,759	97,336	87,538	78,043	69,639	61,267	54,268	47,861	
(2) そ の 他	—	1,293	1,016	1,019	1,019	1,019	1,019	1,019	1,019	1,019	1,019	1,019	
支 出 計 (D)	—	1,024,026	997,666	962,730	957,905	966,299	966,780	966,022	960,764	962,590	958,073	958,069	
經常損益 (C) - (D) (E)	—	1,626	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特 別 利 益 (F)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特 別 損 失 (G)	—	1,626	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特別損益 (F) - (G) (H)	—	△ 1,626	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当年度純利益(又は純損失)(E)+(H)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
繰越利益剰余金又は累積欠損金 (I)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流 動 資 産 (J)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 未 収 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流 動 負 債 (K)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 建 設 改 良 費 分	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 一 時 借 入 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
う ち 未 払 金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
累積欠損金比率($\frac{(I)}{(A)-(B)} \times 100$)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地方財政法施行令第15条第1項により算定した 資 金 の 不 足 額 (L)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
営業収益-受託工事収益(A)-(B) (M)	—	384,419	388,333	393,946	393,082	392,047	390,686	389,327	388,217	386,649	385,277	383,946	
地方財政法による((L)/(M)×100) 資 金 不 足 の 比 率	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健全化法施行令第16条により算定し 資 金 の 不 足 額 (N)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健全化法施行規則第6条に規定する(O) 解 消 可 能 資 金 不 足 額	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
健全化法施行令第17条により算定し 事 業 の 規 模 (P)	—	384,419	388,333	393,946	393,082	392,047	390,686	389,327	388,217	386,649	385,277	383,946	
健全化法第22条により算定した 資 金 不 足 比 率 ((N)/(P)×100)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

投資・財政計画
(収支計画)

日立・高萩広域下水道事業(高萩市分)

(単位:千円)

年 度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	
区 分	資本的収入	1. 企業債	—	78,100	92,400	152,500	182,300	199,700	162,600	114,600	88,000	88,600	76,100	60,900
		うち資本費平準化債	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2. 他会計出資金	—	261,309	239,938	252,050	152,511	133,651	134,555	126,771	114,966	95,572	94,418	89,459
		3. 他会計補助金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		4. 他会計負担金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		5. 他会計借入金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		6. 国(都道府県)補助金	—	54,908	78,963	232,004	235,793	256,210	192,640	150,213	122,885	122,125	160,220	145,389
		7. 固定資産売却代金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		8. 工事負担金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		9. その他	—	17,927	12,252	5,647	2,511	1,752	641	441	354	319	305	300
		計 (A)	—	412,244	423,553	642,201	573,115	591,313	490,436	392,025	326,205	306,616	331,043	296,048
		(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		純計 (A)-(B) (C)	—	412,244	423,553	642,201	573,115	591,313	490,436	392,025	326,205	306,616	331,043	296,048
	資本的支出	1. 建設改良費	—	171,276	200,982	445,667	463,975	498,680	377,644	311,270	249,432	247,428	326,353	308,818
		うち職員給与費	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2. 企業債償還金	—	618,135	594,429	577,266	494,074	486,417	505,163	474,867	470,334	453,941	407,654	392,268
		3. 他会計長期借入返還金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 他会計への支出金		—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5. その他	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計 (D)	—	789,411	795,411	1,022,933	958,049	985,097	882,807	786,137	719,766	701,369	734,007	701,086	
資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (E)-(C)		—	377,167	371,858	380,732	384,934	393,784	392,371	394,112	393,561	394,753	402,964	405,038	
補填財源	1. 損益勘定留保資金	—	369,734	363,729	361,344	364,206	371,752	375,557	379,473	382,059	383,364	387,863	390,183	
	2. 利益剰余金処分額	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3. 繰越工事資金	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4. その他	—	7,433	8,129	19,388	20,728	22,032	16,814	14,639	11,502	11,389	15,101	14,855	
	計 (F)	—	377,167	371,858	380,732	384,934	393,784	392,371	394,112	393,561	394,753	402,964	405,038	
補填財源不足額 (E)-(F)		—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
他会計借入金残高 (G)		—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
企業債残高 (H)		—	6,405,161	5,903,132	5,478,366	5,166,592	4,879,875	4,537,312	4,177,044	3,794,711	3,429,370	3,097,816	2,766,447	

○他会計繰入金

(単位:千円)

年 度		前々年度 (決算)	前年度 決算 見込	本年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度
区 分	収益の収支分	—	396,527	353,100	329,253	320,638	321,044	318,288	314,633	306,762	307,144	301,815	298,133
	うち基準内繰入金	—	386,168	342,259	290,903	279,553	277,372	278,423	276,989	273,666	266,036	266,036	266,036
	うち基準外繰入金	—	10,359	10,841	38,350	41,085	43,672	39,865	37,644	33,096	41,108	35,779	32,097
資本的収支分		—	261,309	239,938	252,050	152,511	133,651	134,555	126,771	114,966	95,572	94,418	89,459
	うち基準内繰入金	—	26,894	21,460	17,812	9,398	6,063	5,206	1,518	0	0	0	0
	うち基準外繰入金	—	234,415	218,478	234,238	143,113	127,588	129,349	125,253	114,966	95,572	94,418	89,459
合 計		—	657,836	593,038	581,303	473,149	454,695	452,843	441,404	421,728	402,716	396,233	387,592